



6 アニマルウェルフェア

発表者:岡田千尋

調査者名:鈴木萌・岡田千尋

- 今回調査のポイント
- 2016年調査と比べ、取り組みをする企業が増加
- 認証を利用する企業が増加
- リサイクルダウンやヴィーガンレザーを利用する取り組みが目立った
- 取り組みの進む企業は、動物の福祉の問題をはらむ素材から離れる傾向が見られた
- 動物の毛皮の取り扱いほぼ無いものの、ポリシー化や公表を行っていない企業が目立った。その他の素材も取り扱いがなくてもポリシー化していないケースが多い

アニマルフリーに向かう傾向だが、ポリシー化する企業は少ない

非倫理的なものを“排除”する



ファーフリー企業

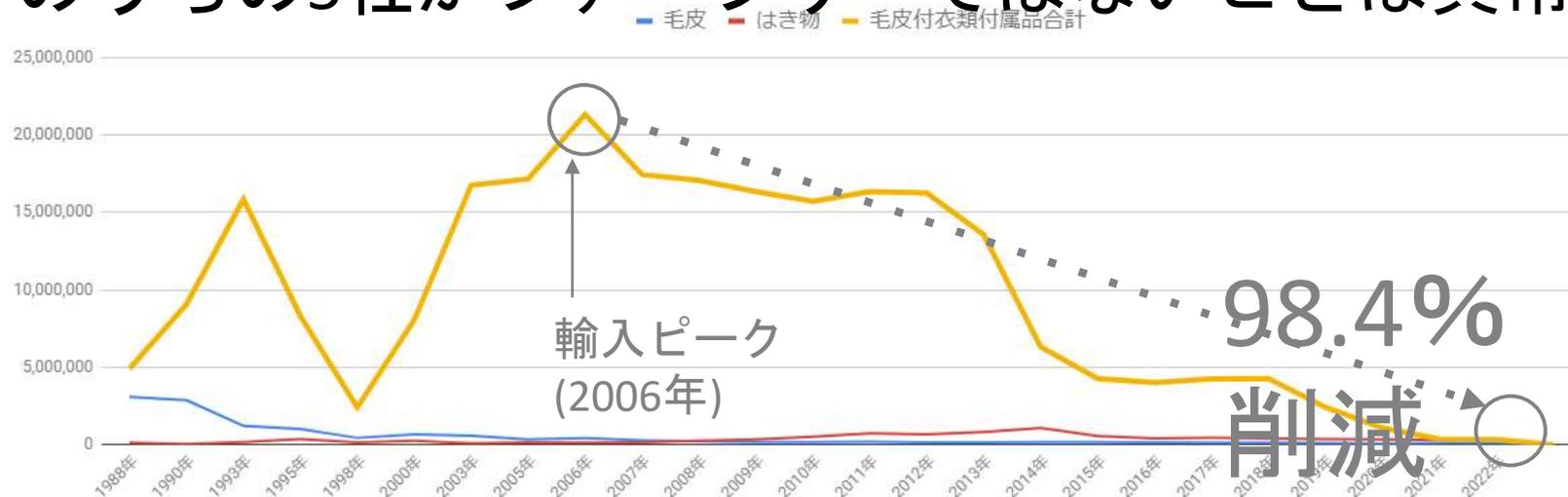
ポリシーはないが毛皮を扱っていない企業

4社/10社

1社/10社

半分以上がファーの取り扱いがある！

毛皮輸入量がピーク時の98%以上現象した中、業界トップ10位のうちの5社がファーフリーではないことは異常





動物に配慮する“意思”は1回目よりは増加

アニマルウェルフェアについての
ポリシーや基準、言及があるか？

4社/10社

動物性原材料のアニマルウェル
フェアについてトレーサビリテ
ィを行っているか

4社/10社

認証ダウン・認証ウールのみを利用する企業

2社/10社

※一部認証ダウンを取り入れる企業は複数あった



★認証があっても残酷さは排除できない

残酷な素材を避ける

アンゴラを廃止した企業

2社/10社

ヤギの毛を一部廃止した企業

1社/10社

ラクダの毛を廃止した企業

1社/10社

ラクダの毛を一部廃止した企業

1社/10社

エキゾチックレザーを廃止した企業

2社/10社

ポリシーはないが取り扱いがない企業 **5社**

動物性素材を減らすための取り組みがある企業

8社/10社

ヴィーガンレザー、リサイクルダウン、リサイクルウール、植物性中綿などの取り組みが見られた